

# 令和5年度学校経営報告

東京都立杉並工業高等学校  
校長 高野 学

## 1 今年度目標達成に向けた取組みの成果と課題

5月、新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、通常の教育活動が行われるようになった。途絶えていた学校行事を復活させ、希薄になった人と人とのつながりがもてる機会を再び作り出すことができた。4月からすべての工業高校の校名が工科高校に変わるなど工業高校改革が進展し、本校についてはIT・環境科開設の前年度となり具体的な準備作業が行なわれた。特に受験者数を増やすため広報活動に多くの力を傾注し、その結果、受験者数は前年度より微増し、その成績レベルは2ランク以上の上昇が見られた。

### (1) 今年度における取組目標

令和6年度学科改編に向けた準備作業を、在校生の教育の質を落とすことなく推進していく。

### (2) 達成に向けた具体的方策の成果と課題

具体的方策	成果と課題
ア 学習指導	
① グランドデザインに基づいた各教科シラバスを作成し、「AL的手法」「ルーブリックを活用した評価」を行い、指導と評価が一体化した授業を実践する。	1.2年生で指導と評価の一体化を目指した観点別評価を実施。今後実践を繰返すことで評価項目の精度を上げることが課題。授業のねらいを授業冒頭に明確にし授業最後に振り返りを行う授業展開を振り返りシートや一人一台端末を活用して実践した。
② PBLを授業に積極的に導入し、生徒の探究する力、学び続ける力を育成する。そして総合的な探究の時間の代替である課題研究を本校の教育活動の集大成として位置付け指導する。	単なるものを作って終わりの課題研究から、人の役に立つより良いものを目指したものづくり探究活動を目指した。課題研究発表会に大学教授を招聘し指導助言により研究の質の向上を図った。プレゼンテーションにおいて視覚的に伝える技術の向上が見られた。
③ PBLを進めるため、他校種・企業との連携や外部講師の招聘などを積極的に行う。	課題研究発表会に法政大および玉川大の教授を助言者として招聘。大阪大、日獣大、神奈川工大、日本工業大等の研究室と教職員との交流を図り指導技術研鑽の機会を創出した。
④ 一人一台端末を有効に活用し、効果的・効率的な授業を展開する。	ほぼすべての授業で端末を使った授業が行われている。端末の破損等の課題は減少。生徒のICTリテラシーは向上している。
⑤ 杉工寺子屋を組織的に取り組み、補習補講を行い、中学既習事項を含めた基礎的な知識の定着を図る。	各定期考査前に寺子屋を開講し、意欲的な生徒及び必要な生徒への補習を行った。学習に課題のある生徒の底上げに一定の成果があった。
⑥ 生徒にとって有用な資格・検定を整理し、取得を目指す取組みを推進する。	電気工事士6名合格(昨年10名) 危険物取扱者丙種16名合格(昨年41名)
イ 進路指導	
① 「進路の手引き」を使い3年間を見通した系統的な進路指導を行う。	進路の手引きを1年生から配布し3年間見通しをもってキャリアデザインができる体制がつけられた。新学科生に向けて進学のための手引きを新たに策定した。今後、総合選抜に向けた指導の手引きを策定する。
② 進路調査や模擬試験等を行い、生徒の能力や適性を把握し、一人一人の適性に考慮したきめ細かな進路指導を行う。	就職希望者学校あっせん37名、公務員1名、縁故1名、就職希望者100%内定。進学希望者大学短大38名合格。就職準備2名 卒業生79名。
③ インターンシップを2年生で実施し、職業観を形成させ進路選択に結び付ける。	5日間で実施。企業会社への事後アンケートでは本校の生徒への評価が高く、生徒の事後アンケートではほとんどの生徒が有意義であったことを記した。次年度も同様の形式で実施する。
④ 専門教科の実習や教科「人間と社会」の	新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、通常通りの体験

体験活動、そして学校行事、部活動等を通じて、自己理解・他者理解を深め思いやりの心や社会性を育成し自己実現を目指す。	活動を行うことができた。人間と社会は、教務部が管理することを明確にし、継続的・統一的な内容で指導できる体制を作ることが課題である。
ウ 生活指導	
①朝の立ち番指導を行い、時間を意識して行動すること、身だしなみや挨拶に関わる指導などを徹底し、礼儀や規律、規範に関わる意識を高める。	生活指導部による朝の立ち番指導を通年行った。身だしなみに大きな乱れは無く、落ち着いた環境が保たれている。SNSの正しい利用法、自転車ヘルメットの着用などの課題がある。
②保護者と連携を図り遅刻防止を含めた基本的生活習慣の改善に向け指導を行う。	通常登校に戻った影響により1日当たりのクラス平均遅刻者数は、0.06と昨年(0.5)大幅に下回った。遅刻は特定の生徒に偏っている。家庭との連携が必要である。
③「いじめ防止基本方針」等に基づき、いじめや暴力は絶対にならない、許さない指導を徹底するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的で開催し、いじめの未然防止に向けた取組や早期発見のための情報共有の工夫を図る。	今年度はいじめに関する報告はなかったが、人とのコミュニケーションに課題のある生徒は少なからずいる。スクールカウンセラーと教科担任そしてクラス担任との連携体制を構築し、丁寧な指導に当たる。
④授業やセーフティ教室等において、ネットリテラシー、情報モラルに関する指導を徹底する。	セーフティ教室を実施。教科「工業情報数理」で指導を行った。SNSの使用による大きなトラブルには発展しなかった。
エ 特別活動・部活動指導	
①部活動、特別活動及び体育の授業において、心身の健康、体力の向上を目指す。	新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、修学旅行、体育祭、文化祭、マラソン大会等の行事はほぼ例年通りの内容で行うことができた。12月のマラソン大会では全員が制限時間内にゴールするなど、昨年に比べ体力の向上がみられる。
②部活動指導方針に基づき、生徒が主体的に取り組む活躍する機会を作り出す。	感染症が広がった2年間で部活動の活動が低迷し、部活動加入者は減少傾向にある。柔道部は女子が関東大会出場。電子工作部は2年連続全国大会出場と実績を残した。
③「2020オリンピック・パラリンピック教育レガシー」実施方針に基づき、日本の伝統文化の理解や国際感覚を養う等、国際理解教育の充実を図る。	12月、TOKYO GLOBAL TORITSU ambassderを2年生で実施。専門学科高校生海外派遣研修フィンランドに、1年生2名2年生2名が参加。国際理解教育の充実を図った。
④行事や集会等における校歌斉唱、生徒による挨拶活動、地域への貢献や奉仕活動等本校の伝統的な取組を一層充実させ、生徒が誇りをもてる学校づくりを推進する。	60周年記念式典を機に、校歌を昼休みに流し触れさせる機会を作った。コロナ禍の影響が残り、生徒会活動も低調となり、目的を達成することができなかった。日常的な挨拶が習慣化されている生徒が多数。
オ 保健指導	
①スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実、学校医等と連携した健康教育の推進、保健委員会の活動の活性化などを図り、自殺対策に資する教育の推進、発達障害等の特別な支援が必要な生徒の心の健康の増進や学ぶ意欲の向上を図る。	ケース会議を開催しなかった。学年ごとにそれぞれが主体的に動き対応している。生徒数が少ないため現在では対応できているが、今後は定期的にケース会議等を開催できる体制を作っていく。スクールカウンセラーによる校内研修「発達障害の理解」を1回実施した。
②感染症対策を施し環境整備に努め、清掃活動を徹底し清潔で明るい学習環境をつくる。	校内消毒は環境整備員が行っている。施設の老朽化を解消する小改修・修理を進めている。
③特別教育支援コーディネータを中心とした教育相談体制を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を構築し	中途退学者の数は昨年7人から10人と増えた。学校が通常通りの教育活動が行えるようになったが、適応できない生徒も出てきている。2年間人間関係が希薄になっていたことも要因の

中途退学者の減少を目指す。	一つとして考えられる。
カ 募集・広報活動	ク 学科改編に記す。
キ 学校経営・組織体制	
①学科改編に向けて積極的に先進校の学校視察・授業見学、有識者の招聘を行う。	1 2月秋田県へ先進校視察を実施。
②デジタル技術を活用しDXを進め業務の質を高めるとともに、ICT環境を最大限活用して生徒の学びを保証する。	庶務事務システム、校務支援システム、採点システムの運用を促す校内研修を実施。次年度からClassiの活用を始める。
③日常の業務を通じて教育公務員としてのあり方を自覚するとともに、研修会を実施し教員相互でミスが起こらない職場風土をつくり、服務事故防止に努める。	定期的に管理職による事故防止研修を実施。適宜、注意喚起を行っている。服務事故0件
④体罰・暴力行為・暴言等の根絶を図る。体罰に関する認識を教職員・生徒・保護者が共通理解し、体罰はしない、させない、許さない校内風土の醸成を図る。	教職員の服務に関する意識は高い。部活動指導方針に、体罰にかかわる事項を追記させている。教職員は定期的な研修等を行い自己研鑽している。
⑤管理職は所属職員のライフワークバランスに気を配り、業務内容の見直しを進め、勤務時間の削減を目指す。職員会議の上限時間を1時間以内とする。	時差勤務の適応などにより現在は課題のある超過勤務者はいない。部活動指導等の業務が一部の教員に偏らないための工夫が必要である。
⑥防災体制を整備し、非常時に備えるとともに、関係機関や地域と連携し実践的な防災教育を推進する。各種防災訓練を充実させ、生徒の防災意識の向上を図るとともに、自助・共助のための実践的な知識・技能の習得を目指す。	水道局と連携した1年生防災活動を実施。防災訓練を火災や地震発生時を想定して年4回実施した。
⑦3月に実施予定の創立60周年行事を成功裏に収める。	3月6日、本校体育館で多くの来賓そして保護者の方々の臨席のもと60周年記念式典を行った。同時に記念誌を作成した。
ク 学科改編	
①6月までに、令和6年度生教務規定、生活指導規定、進路指導規定、年間行事計画、高大連携計画等の策定。	1月までに策定することができた。新入生の手引き等に落としこむ。
②広報用リーフレット・動画の作成、中学校および学習塾訪問。見学会・説明会・体験授業・体験入部、の実施。HPのリニューアル	学校案内を3回カスタマイズ。プラスしてITと環境に関するチラシを追加で制作。独自の映像コンテンツを作成しユーチューブ広告等を行った。HPの更新回数は、昨年175回が今年度は300回を超えた。ツイッターを含めて情報発信を行った。見学会4回実施。説明会3回実施。体験入学3回実施。いずれも昨年の2倍近い参加者を集めた。
③制服、実習服、体育着、上履き、教材等の決定。	業者選定を経て新たな制服等を完成させた。
④施設設備の改修、備品の購入	産振備品費から新学科初度教材費までを見積もり、要望通り計上された。体育館床工事、屋上防水工事などが終わり、次年度太陽光LED化工事が行われる。
⑤各教科、指導の重点、年間授業計画を策定。国語・社会・数学・理科・英語は大学進学に必要な学力を伸ばす授業。体育・芸術・家庭・IT・環境は、実習や実験を通じて学ぶ意欲を育てる授業を展開する。	新学科のコンセプトを共有し、各教科の1年生授業シラバスを策定した。特に「環境探究基礎」は野外体験活動等を組み入れ体験型・課題解決型で教科横断的な学びを展開する。「IT基礎」は情報Iの代替科目として大学入学試験を念頭に置いたカリキュラムを展開する。

## (3) 数値目標と達成度

	項 目	数値目標	実績値	
			昨年度	今年度
学習指導	杉工寺子屋は学習サポートに役立っている	80%以上	80%	79%
	平日授業以外学習時間1時間以上（朝・放課後補習補講を含む）	10%以上	11%	20%
	資格取得等の指導の充実、 国家資格取得者数	100人以上	56人	75人
	資格取得等の指導の充実、 認定資格取得者・検定合格者数	300人以上	293人	219人
進路指導	キャリア教育の充実、インターンシップの実施	2学年で実施	5日間	5日間
	就職指導の充実、就職希望者内定率	100%	100%	100%
	学校評価アンケート 生徒 進路指導満足度	80%以上	93%	92%
	進学希望者の大学・専門学校進学率	95%以上	95%	94%
生活指導・保健指導	遅刻者数（1日当たりクラス平均数）	前年度実績以下	0.7人	0.06人
	教育育相談の充実、スクールカウンセラーによる校内研修	2回以上	1回	2回
	暴力行為、いじめ件数（教育委員会届け出数）	0件	1件	0件
	特別な支援を必要とする生徒に関わる会議	年5回以上	0回	0回
	中途退学者の数（転学を含まない）	10名以下	7人	10人
部活動指導	学校評価アンケート 生徒 学校行事満足度	80%以上	79%	87%
	部活動加入率	70%以上	68%	32.7%
	地域連携活動	5回以上	2回	2回
募集・広報活動	学校説明会、見学会参加者数延べ数	600人以上	350人	770人
	H P更新回数	300回以上	125回	350回
	学力選抜応募倍率	1.1倍以上	0.28倍	0.34倍
	推薦選抜応募倍率	1.5倍以上	0.73倍	0.80倍
組織運営	学校評価アンケート 生徒 本校に入学して良かったと思う	80%以上	80%	83%
	学校評価アンケート 保護者 本校に入学させて良かったと思う	80%以上	85%	91%